夕刊 磐城新聞
五月九日發行
定價 一部 金五錢 一ケ月 金六拾錢(郵稅拾五錢)
廣告料金 普通欄 金六拾錢 特別欄 金九拾錢(五行十二字詰・一行一回)(場所指定一行拾錢增)
編輯印刷發行人 遠藤龍□ 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞社 振替□□□□(タイラ□□キン) 平局私書函第十二號 電話五六四番
(日曜祭日翌日休刊)

齋藤茂吉小論(三)

島田忠夫

○續『芥川龍之介全集』から

のみならず僕に、上田敏と厨川白村とを一丸にした語學の素養を與へたとしても、果して彼等の血肉を喫ひ得たかどうかは疑問である。(僕は今もなほ彼等の詩の音樂的効果を理解出來ない。稀に理解したと思ふさへ、指を折つて見れば十行位である)この故に當時彼等の詩を全然讀まずにゐたとしても、必ずしも後悔はしなかつたであらう。けれども萬一何かの機會に『赤光』の一卷を讀まなかつたとすれば、——これも實は考へて見れば、案外後悔しなかつたものかも知れない。その代り幸福なる批評家のやうに彼自身の色盲には頓着せず、『歌は到底文壇の中心的勢力にはなり得ない』などゝ高を括つてゐたことは確かである。

且又茂吉は詩歌に對する眼をあけてくれたばかりでない。あらゆる文學上の形式美に對する眼をあける手傳ひもして呉れたのである。眼を?——或は耳をとも云はれぬことはない。僕はこの耳を得られなかつたとすれば『無情さやかき起されし春の雨』の音にも無關心に通り過ぎたであらう。が差當り恩になつたものは眼でも耳でも差支ない兎に角僕は、現在でもこの眼に萬葉集を見てゐるのである。この眼に猿みのを見てゐるのでゐる。この眼に『赤光』や『あら玉』を——もし正直に云ひ放せばこの眼に『赤光』や『あら玉』の中の幾首かの惡歌をも見てゐるのである。(未完)

小唄…機織り娘

長澤恒重

おめゝの中の
ねえちやんが
坊やよ、こつち見て
わあらつた。

×

あーい
わたしや
結城の、機織り娘
筑波あかるく
霜まつしろで
雀ちゆつと鳴きや
目がさめて
トン、トンカラリ
トントンカラリ、トンカ
ラリ

×

あーい
わたしや
十八、機織り娘
西風やめてくれ
また手があれる
今夜、六さん
何とにぎろ
トン、トンカラリ
トントンカラリ、トンカ
ラリ

×

あーい
わたしや
結城の、機織り娘
九時になつたか
炬燵にはいろ
今日も五尺に
ちと足らぬ
トン、トンカラリ
トントンカラリ、トンカ
ラリ。

雜詠(一)

友常幸一

雪空に鴉が一羽二羽竹馬から子供はおちて泣いて歸つてくる

夕方からおちてきた雪は夜學から歸つてくる子供のマントにしろい

かるい腦貧血にぬれ手拭からたつる水をひつたりと感じてゐる晝

田舍のとほいこと下駄の泥をおとしながら椿の花をおとしてしまつた

一途にわかれやうといつてはみたが椿の葉に埃のたまつた冬ではあつたが

茶の花が咲いて氣がちがつて死んだ妻の幻想が私をくるしめさせる

目(童謠詩)

山口正夫

雨やはおめゝが
まあるいな
此のかごくるりと
猫の目
くるくるまはるが
とんぼの目
月夜の青葡萄
露の玉

拈華微笑

海軍問題で現內閣に十八吋の巨彈を連發した內田前次官
◇
税金逋脫から頸輪を拔かれて犬迄失業。と猪野毛代議士の皮肉
◇
對症療法を誤つた現內閣をコキ卸す木村代議士
◇
大入りと野次の少いので最近の記錄を破つた昨夜の演說會
◇
公園の躑躅この雨で一層の風情を增さん
○……○

一日一禪

○
小室山前鐵馬駒
三更□盤無根草

5月10日

△遼東還附の詔勅、是れ露獨佛三國の干渉の結果である、噫(明治二八)△チュルゴー生る、佛國大改革の將に起らんとする時巴里に生る、ルーソー、ゲエテ、ヒーム等の改革家の首魁等は先輩である、大經濟學者アダムスミスとは同時代で其傑出せる經濟的政治の意見相似たり、藏相として善く大改革時代に處して佛國の政治經濟の政治策を樹てた(紀一七二七)△府藩縣の印章を制定す(明治元)△新貨幣令布告(同四)△普佛戰爭終結(同四)

時代警句(花蘆)

○人間が羽振りの良い時には雪ころがしの如く轉んで行く程重量で土でも藁でもくつつけて太つて行くが追つけお天道樣が照りつけると段々融けて土も流れる、襤褸も見える、つまり元の無に還る……

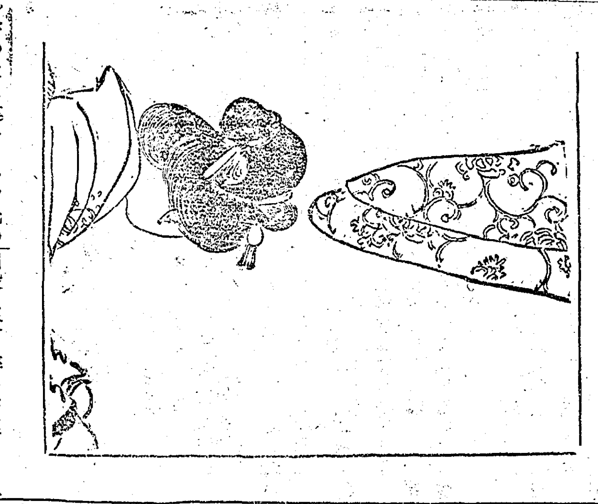
○人の一生には爲す事爲す事皆圖星を外れて宛然皇天殊にその一生を選んで折檻また折檻の苦を續けさまに打ち下すかの如く感ぜらるる所謂『き面に蜂』の時期少くも一度はあるなり……(青山白雲)

講談 元祿名妓傳

小邑井小巴演
(宮野恒彥畫)
六十七席

暫くあつて太郎左衛門。

太『是れ女其方の名は何んと申すぞ』照『ハイ手前は照と申します、甲州十條の水晶の問屋島屋の娘で、是なるは召使ひの長助……』と言葉も澱まず聲は銀の鈴でも振るやうだ、ヌルト、さんは〇『ハ、、、ア、あゝ甲州の長助か、長助不思議なところへ來たなア』さ聲を掛けた太郎左衛門驚いて 太『御坊には此の者逹を御存じか』〇『イヤ女は一度見たことがあるが、何んだか存じません、連れの長助と云ふのは愚僧□か俗縁がございます』太『ハテ御坊俗縁のものか』〇『ヤ夫れは妙ちや、長助面を上ろ』長『へ、エ』と長助爺ィ顏を持上げたが、驚いた體で長『ヤ、ッ是れは大明寺のお長老樣……』〇『矢ッ張りその長助であつたな』此の坊さんと云ふのは云ふまでも無く相州絹笠大明寺の長老日益だつたのでございます、おてるも道理で見たやうな坊主だと思つた思はず『チエッ』と舌打ちをした、これはおいしい物をたべての舌打ちではない、此の坊主の寺へ一晩泊つた時宗一が來合はした、妙全と云ふ意地の出つた納所が居やがつて、自分と宗一のことをかぎ知つた口振りだつた、アノ時は此の、主は留守だつたが、跡で妙全め叱と此の坊主に告げ口をしやがつたに違ひない、此の坊主が斯んな所に居る以上は、代官をタラシ込みうまい狂言を、打つことは出來なくなるかも知れない、何んだつてこんなところに居やがつたらう、惡事を仕様と云ふ奴は却々するどいもので、何分日益が氣になつて仕方がありません、ところが太郎左衛門殿は、却て日益の言葉を便りにし。太『御坊の俗縁のものとすれば少しも疑ふところはない、是々森右衛門其の兩人を是れへ上げろ苦しうない是れへ出せ、庭で調べるも可愛想だ、酒の相手でもさせながら緩々聞くとする上げろ〳〵』どうも大變な騒ぎ、おてるの色香に迷ひ込んだものと見た、罪人同樣に庭先で調べ様としたものを、口實を設けて座敷へ引上げることになる、日益の俗縁と云ふことが機會になつて忽ちお照長助は酒の席にはくることになりました、心配してのは杉村森右衛門。杉『是りやアいけない、お照が美人だから大將變な氣を起したらしい、此處で大將におてるを召上げられて終へば、トンビに油揚げを浚はれたやうなものだ、俺は餘程の馬鹿ッ面になる是りやア困つた』と頭掻ハチ卷……日益は最うお照の不思議な女なることを悟つて居ります、是から何んなことを言ふか、何んな所置を取るかと薄ボンヤリに見せ掛けても、注意はおてるから放れない、太郎左衛門殿は最う醉ひが廻つて上機嫌 太『是れお照前へ進め、許す前へ出ろ、夫れから下田沖にかゝつて居る龍神丸が賊船だ、大賊が乘込んで居ることを知つて居るとの事だが、何うして分つたのか』照『ハイ手前は甲州十條に水晶問屋をやつて居ります島屋の娘、是れなる長助をともに連れて江戸見物に參りましたところ、鍋島樣の御家中鍋島釜千代と云ふ人にかどあかされました始めは全く鍋島樣の御家中とばかり存じ居りましたところ、それが海賊の張本と分りましたから、驚いて逃げやうと致しましたが、女や老人のことで遂う〳〵二人は手下のために縛られ、駕籠にくゝされて龍神丸へ移され様とした時、好い案配にお役人衆のため助けられ此方へ逃られて參つたのでございますが、その龍神丸と云ふ船は全く海賊の船に相違ありません、憎い奴は彼の釜千代と云ふ賊、殿樣どうぞその賊をお召取り下さいますやうにお願ひ致します』と出多羅目ながら少しも淀みなくスラ〳〵と述べ立てた、普通の娘にしては餘り大膽に過ぎてゐるが、太郎左衛門殿目が暗んでそんな判別力がない。



ラヂオ

仙臺 JOHK

…十日(日曜)…

△前九、〇〇 九、一〇A 氣象通報
△九、一〇 九、三〇A 榮養料理(鱈のバター燒) 榮養研究所
△九、三〇 一〇、〇〇A(子供の時間)獨唱と合唱(女學生諸君のために)
△一〇、〇〇 一一、〇〇 修養講座 山室軍平
△一一、〇〇 一一、四〇A 講演(ゼネバより歸りて) 特命全權大使佐藤尚武
△正午 A 時報 氣象通報 今日午後の番組豫告 告知事項
△後〇、〇五 〇、四〇A 全國ニュース
△〇、四〇 二、二〇 ローカル 女流浪花節大會(渡英五人男…興津白浪 …慶長武士…吾妻の逢引櫻川)
△二、二〇 六、〇〇A 運動競技(春季六大學野球リーグ戰試合狀況…慶立二回戰)
△三、四〇A 氣象通報
△三、五〇 經濟市況
△六、〇〇 六、三〇C(子供の時間)童話劇(名人を敬ひませう)名古屋童話劇協會
△六、三〇 七、〇〇H 講演(鐵鋪に就て) 東北帝國大學助教授理學博士遠藤鐵造
△七、〇〇A 全國ニュース 河北新報社…ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告
△七、二五 七、五五 ローカル 獨唱とチエロとピアノ 獨奏 獨唱…塚田多圭子
△八、〇〇 九、三八A ラヂオ風景(初夏の漫畫行進曲)作並放送指揮…前田千帆
△九、四〇A 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項

廣告

木村醫院 平町六丁目 電話 三〇九番

大和田醫院 平町南町 電話一七〇番

貸切は◎◎
親しみあるサービスを以つて知られたる!
尼子タクシー◎
電六四〇番
主任 澤 正路

春衣新柄御案內
最も新らしき柄の
銘仙とモスリン着尺
優秀特選
春の帶側
いづれも新品豊富に取揃へました
是非御覧下さい
三井呉服店

ラヂウム温灸治療器
廿餘名博士 五十餘名醫大家 推奬
胃腸病、婦人病必治法
定價 特大 拾參圓 特小 拾圓
特約部
平町五丁目廿八 志賀齒科醫院
平町白銀町九 産婆 關口悅子

貸地
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

市原醫院
內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三三男
平町田町本通
(入院隨意)
電話一一四番

吉田眼科病院
平町紺屋町

◎レコード破りの
石炭大廉賣!
(磐城炭礦二等炭)
正味十貫目一俵 金卅錢也
◆品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモツトートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◆値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎配達ハ一俵ヨリ致シマス
御注文は
平驛前 阿部石炭商店
電話二三七番

片言隻句の野次無く 滿場熱辯に醉ふ
稀有の盛會裡に終始した 木村代議士議會報告大演說會

木村代議士の議會報告演說會は既報の如く昨八日午後六時から平町聚樂館四倉町海盛座の二ヶ所に於て內田八田兩總務、猪野毛木村兩代議士、鈴木縣支部、井上郡部會兩幹事長等の辯士が双方掛け持ちで開催したが入場者は平町千數百名四倉町約千名何れも開會間も無く木戸を締め切つた爲巧みに裏口から入場し得た聽衆等は花道及辯士の身邊近く辯臺を埋めた程で何としても入場出來ず空しく歸つた向も少からぬ迄稀有の盛會であつたが內田氏の獨壇場とも云ふべき倫敦條約問題をはじめ完膚無き迄に現內閣の秕政を痛擊する各辯士の熱辯に動かされその間政談演說會通有の野次喧噪無く十時半大成功裡に閉會今九日は前記の辯士中八田總務を送つて胎中代議士を迎へ午後一時から植田町菊田座に於て開催したが之亦非常な盛會で同六時から開催さるる小名濱町磐城座の方も大盛會なるべきは殆と既定の事實である　中であると

求人數增加
去月中の紹介所

平職業紹介所の去月中に於ける紹介狀況は求人男六十九名、女十九名合計八十八名に對し求職は男六十六名女八名合計七十四名でその內紹介票を交附したもの男六十名、女十一名で男は土木建築女は女中が大部分を占めて居るが之れを前年同期と比べると求人三十四名の增求職一名の減であるが之れは目下着工中の上水道工事の申込みに依るものであるさ

學事統計審查

縣主催の學事統計審查會は二十七、八の兩日午前九時から郡農會樓上で開催すと

職業紹介協議
仙台の一道六縣大會へ 平町から四家主任出席

仙臺市主催となり來る十八九の兩日間公會堂に於て東北々海道職業紹介所長、市町村、主任者大會を開催するが出席者六十餘名に達する見込みで平町からは四家主任出席すべく右に關し伏見町長は同主任と諸般の協議中であるが同會の提出問題は四十四件に上り左記の如く分類されてゐる

一、少年職業紹介に關する件、九件
一、職業紹介事業實施上に關する件、三件
一、職業紹介費補助に關する件、四件
一、出稼勞務者に關する件一件
一、請願及建議に關する件六件其他三件

石城水產品多數出品
縣銘產展へ

牡丹滿開の須賀川町に來る十四日より開催される福島新聞主催縣下銘產品展覽會は明十日を以て大体出品申し込みを打ち切るが石城の水產界に於いては紹介宣傳に絕好の機會であるとして小名濱町に於いては同町勸業主任黑澤島吉氏、四倉町に於いても同町長谷川勸業主任專ら生產者間を奔走し小名濱町においては同町の銘產約八百點を既に展覽會事務所に發送し四倉町においては同町水產補習學校において優良品の製造を急ぎ今明日中發荷の見込みである、本縣水產試驗場においては最も新鮮なるものを原料とした水產加工品を製造し十錢均一といふ土產品を是又多數の女工を以て製造

溫泉情話 その頃の湯本（7）

熱湯沸る源泉から樋を以て送られる清透珠の如き湯は或は土中を潛り或は湯川に沿ふて樋から溢れる湯を川に滾し乍ら、村中の夫々の湯殿に通ずるのであつた村中の人達は之れに浴みし更に設けられた小槽の湯では米をとぎ食器を洗ひ炊事萬端の用意は臺所に至る前に於て大半は恁うした湯殿に於て片附けられるのが常であつた。

不淨な一物をも交えぬと信じそのお湯で食器を洗ひ米をとぐ當時に於て。『ゆがまの中に茄で蛸の樣になつて女が死んでゐた――』と云ふ飛報は如何にその湯でたつた今しがた米をとぎ而して之れを口にした家庭の人々を愕然たらしめた事であつたらうか。

糜爛してヘラ〳〵と剝離した若き女の表皮やみるめの如き黑髮の一片や、そうした若き女性の肉の壞滅から生じた汚物の數々が附着して居る事を想像し乍ら、樋の中や湯槽の周圍に漂ふ靑渋のような湯垢を見て今更甘ま酸い樣なむかつきは止め度も無く咽喉元まで込み上げて來るのであつた。

――當時の小名濱は如何にして恁うも情熱多恨の子を出したものか、この女も先の伯樂の如く湯本から二里太平洋の波風寒き小名の生れで本篤の女郞大和がそれであつた（以下或る種の事情により變名を用ゆる場合あるべし徵衷乞諒）

戀に理智の明を燒き盡された妓大和はもう手負ひ猪のそれの如くに無我夢中であつた。

女の情熱に今は寧ろ一種の怖氣ついた男――九州から來てゐた炭礦の職工――の誠意を起正誓紙に確むべく一夜女は男に迫つて之れを書かせようとした。

商賣氣離れた女のまごころから義理に絡まれ人情に絆され曳き摺られるように孩迄は來たものの聲涙共に下る親兄弟の諫言に男はその頃飜然として改心の道程を辿りつつあつた。今や伸つ引ならぬ女の肉薄に瞬間の際を見て男は戶外に遁れた。

泣くに泣かれぬ男の苦衷を變心と誤解した女は憤怒の形相物凄く男を追はんとして窓から飛んだ。

焉んぞ知らん眼下は沸々と沸る熱湯の源泉である。

女はこの中に落ち込み虛空を掴んで悶絕したのであつた。（つゞく）

國勢調查員表彰
明後十一日平町で 謝狀及記念品贈呈

第二回國勢調查員の表彰式は十一日午後二時から役場會議室で擧行左記五十名に謝狀並に記念品南部鐵瓶一個を贈ると

小野國次郞、植頭鶴松、佐々木藤次郞、山崎淸三佐藤作平、水竹泰助、平澤勝次郞、佐藤榮一、渡邊貫一、山崎孝之助、梅原利三郞、松本愛三、平松武、長小次郞、鈴木要七、長瀨富彌、酒井政之助、齋藤寅吉、水津宗次郞、靑木秀次、會延太郞、鈴木良平、酒井秀次郞、大島嗣太郞、若松八右衛門、吉田鎭政、佐藤正次郞、岡田千藏、仲野伊重、佐藤榮吉、三森淸重、吉田喜代治、堀喜一廣木榮之介、石井重太郞鈴木廣成、伊藤重善、鍋田三重、佐藤源五郞（豫備調查員）遠藤五三二郞酒井寅之助、佐藤伊太郞花澤文庫、西野源次郞、松本新次郞、鈴木丑松、渡邊太次郞、助役遠藤長誠、收入役大河原金之助町長伏見彥衛

石城の團体貯金
斷然他郡市を凌ぐ
縣下二百卅萬圓の 約三割近を占む

縣社會課の調查による昭和五年十二月末現在縣下團体貯金の狀況は團體數二千七百十三、團體員十萬六千四百六十三人貯金額二百三十萬三千九百八十八圓でこれを前年度に比較すると打緩く經濟界の不況に祟られ金融硬塞の結果團體に於て百七十八、員數七千三百八十五人、貯金額十四萬四千七百八十七圓の各減少をヽしたが石城郡の分は團體數二百七十、員數一萬五百十九金額六十七萬五千五百六十七圓で他郡市に比し數倍或は十數倍を占め縣下全体の約三割近に當つてゐる

望み薄に傳へられた 平商の配屬將校決定
工兵第二大隊附の駒場中尉 愈々近く軍事教練を開始

昨年來五年制度に擴張昇格された平商業學校では他の甲種學校同樣軍教に從事する將校が配屬されるわけで昨年中旣に陸軍當局に於て之れが下調査を遂げ本年度に於ては或は遠からずして實現されるではないかと觀られてゐた矢先きに於て最近政府が行政整理準備會で該配屬將校を廢し在鄕將校をして之に代らしむると云ふ案が出たので平商業學校當面の配屬將校問題は更に一層の注意を以てその成り行きを刮目されてゐた。而も現在本縣に配屬されてゐる高等商業學校一人、中等學校二十一人、計二十二人の現役將校に對しては縣費が一文もかゝつてゐない處へ若し在鄕將校に依り軍事教練の衝に當らしむることとなれば、此經費は當然縣が負擔する事となり地方財政が極度に逼迫してゐる今日到底その負擔に堪えざるべく殊に町費を以て支辨せねばならぬ平商業校の軍事敎練に至つては全然可能性無きものとして前途を悲觀されてゐたが之の程突如

工兵第二大隊附　工兵中尉　駒場綝
平商業學校服務を命ず

の發令を見るに至り近く著任と共に軍教を開始する事となつた

上小川村 掃立減少
一割五分見當

上小川村部內の養蠶は糸價の格安と手元桑園の不如意に依る施肥不完全から昨年に比し約一割五分見當の減少で目下掃立を了したのは僅々五六名に過ぎず一般の掃立は十五、六日頃と觀られてゐる

○○○○○ 龍田靑訓公民生　双葉郡

龍田青年訓練所生四十五名同公民學校生徒三十五名は今九日農事試驗場石城分場新舞子濱、片倉製糸場、松ヶ岡公園等を視察歷遊した

日午前十時から執行了つて正午から同村小學校に於て日淸日露兩戰役出征軍人軽田辰吉、野崎丞之助、小野直三氏の講演あつた、尙ほ鹿島村鄕社鹿島神社の祭典も今九日執行されたが神輿の渡御各種餘興で賑つたと

○○○○○ 上小川種痘執行　上小川村では十一日より三日間全村民に種痘を執行すると

○○○○○ 鎌田の賭博團逃げる　平町鎌田町造花商坂內濺吉方で昨八日午前十一時頃胡摩澤野榮行商渡邊末藏外三名が賭博開帳中戶籍調査に來た平署員に發見取り押へんとした處逸早く逃走したので行衛搜査中

○○○○○ 小名鹿島の祭典　小名濱町諏訪神社の招魂祭は今九日午前九時から此程第二小學校に新設したコート開き

磐城高女旅行團消息
◇…四年生百六十名一行

神風の伊勢詣で

奈良を九時に出發して三時間程で山田に着いた。少し汽車の混み合つたのは遺憾だつたが外宮の玉砂利をふみしめて神前にぬかづいた時はなんとも云へぬ深い感じを身におぼえた。窓から吹き込む風を氣持よく受けて三十分程で內宮へついた白木造りのお社と驚く程の樹々のそりはいやが上に頭の下るのをおぼえしめた。二見にすぐ電車で向ひ眼前に浮々とした海を眺めた時はこの五日間の疲れを忘れられた（六日二見舘にて第四信）

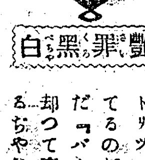
曉の二見に 御來迎を拜す

渺とした伊勢の海の彼方より吹き寄する潮風に樂しい旅の夢を破られ二見舘の一夜は明けました、私共一同は曉方四時頃お日樣の御來迎を拜むために波打際に飛んで參りました寄せてはかへし寄せてはかへす波に私共の心は自づと躍動するのでした。方々の生徒が澤山集つて來て日の出を待つて居りました、やがて東の空が紫金に輝き圓い大きな太陽が浮び出てその光りが海に反映し夫婦岩とうつり合つてゐる樣は山ばかり見てゐた私共には何よりの絕景でした、それより約十四時間の間『越すに越されぬ』とうたはれた大井川や天龍川、富士山の絕景を眺め漸くのことで藤澤につゐた、私共はすつかり歸り氣になつて長い時間も短く思はれました、それより電車にゆられ夜景の江の島に無事に樂しく着きました（七日江の島にて第五信）

コート開き
あす今新田で

本社メダル寄贈

好間村第二青年團では明十



艶罪黑白

◇鼻の低いのは白壁とキッスしたように鼻筋だけを白く塗る、それを逆にいつて谷間に雪が消え殘つたように白粉をナスつて成るべく鼻を低く見せようとのトリックをやつてるのがひさごだ『バカだな、却つて高く見へるぢやないか、研ぎ出しの塗り物ぢやあるまいし、鼻だけ生地を出してら、だから附け鼻と間違へられるんだぜ◇そのひさごが英語を知らなきや時勢に遲れるといふんで、お客さへ見ると姿をドライブして頂戴な、迚もエンヂンの關子が好いのよ、アラ旦那、ダブルシーへ入らつしやるのと來る、ダブルシーは好いが坊やシー〳〵は未だなのは飛んだ赤ン坊扱ひだ。

○……○

出漁中江名沖合で 頭蓋骨を摑ひ上ぐ
一切不明で假埋葬

江名町中之作桂作漁業吉田保吉所有の地曳網は去五日午後六時半頃同町二哩の沖合、漁業中人間の頭蓋骨を摑ひ揚げ屆出たので平署で檢視したが毛髮などは悉く脫落して恰も岩盤の如く男女別さへ別明せず身元其他も一切不明なので一先ず同町役場で假埋葬に付した

四倉通信
四倉壯丁合格者

四倉町の本年度壯丁六十四名中去る七日の檢查で左の二十一名が甲種に合格した

長谷川秀二、綠川義夫、鈴木行雄、佐藤松吉、中村榮、市東春松、水谷亥三郞、大河原鐵郞、小湛延次郞、松崎榮、新井力夫、片寄秀士、椎名忠敬山崎忠平、田邊義一、高野政雄、下平賀喜、前川淸三郞、山崎國司、伊藤德太郞、皆野川吉郞

叶多氏當選

好間村農會では此程郡農會議員の選擧を執行叶多淸氏當選した

平町人事

△出生
柳町四大平村大谷民野町五二佐藤要一郞三女佐喜子

△婚姻
鎌田町三一佐藤フミ（一八）東京府下南豐島郡南千住町七丁目二八大塚春次（三三）
胡摩澤五一鈴木スガ（三三）ブラジル、サンパウ洲ソロカバナ縣、マシヤト驛宮下良太郞（三二）
東京府荏原郡入新井宿吉屋良一（二八）搔槌小路五小林トミ（二三）
田町五六野口淸雄（三三）秋田縣仙北郡檜木內村國部ミヨ（三三）

▲死亡
材木町四〇澤許子（二一）
正月町一四賀澤宏介（五六）

外科　內臟外科　整形外科　外科一般
產科。婦人科
醫學士　松永憲一
院長　木村寅次郞
平新川町十九
木村病院
電話一六四番

セダン揃ひで！
貸切專門の！
昭和タクシー
三四三番

入院隨意（自炊の便あり）
X光線
外科專門
平南町
病室完備
上田醫院
（電話一二九）

時代は變る!!
破損性時計硝子より
不損硝子へ……
絕對安全なコワレヌ時計硝子が專賣特許品で出來ました。
最も經濟的であります。
是非御使用御試驗を願ひます。
平三　大谷時計病院
電話十九番

內科　外科　耳鼻咽喉科　レントゲン科　小兒科　花柳病科
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽淸
藥劑士　佐竹菊雄
平町田町
高久病院
（電話五一三番）

長靴と防水マント
小學生用　0.65ヨリ
小學生用　0.95ヨリ
5丁目電353番
雨傘類取揃
モリタヤ洋品店